

今学期の体験を振り返ってまず、感じたことは、先学期よりも日本語の授業をする自分の心構えが、今学期の体験をもとに変わったなということです。なぜかという、中国からきた留学生に授業をするときに学習者が2人という少人数でも、授業を行うことに対して不安な気持ちのほうが多くあったり、恐れている気持ちが自分の中にあったりしましたが、今回のYMCAでの実習の回数を重ねるごとによって、学習者の数もずっと多いのに、授業を行うことに対して、不安という気持ちよりも、次の授業でどんなことをしたらもっと良い授業になるのかなど、次につながるように考えて授業をしたいという気持ちの方が大きいと感じられたからです。教卓に立った時に、自分の授業に学習者が引き込まれて、学習者が日本語を学ぶにあたって「苦」という気持ちにはなあってほしくないという思いと、普段の自分から、教える立場である先生に変わって表情を変えることや視野を広げて学習者一人一人の表情をみていくようにすることは、前回と同様に変わらずに自分の中に持ち続けていました。それから、前回の抱負から、知識をたくさん持っている人からたくさん吸収するという気持ちを忘れずに、一度YMCAに見学に行った時にYMCAのN先生の身振りや手振り、話し方、表情、学習者への質問の聞き方、わかりやすい言葉の選び方などをメモを取りながら研究して、こうすればいいんだと学ぶことができました。N先生だけにかかわらず、日本語の授業を一緒に行った実習生の仲間の授業からも、いいところをどんどんメモをして自分の中にとり入れていくことができました。自分が授業を行う時にわかりやすい言葉に言い換えたり、ジェスチャーをしたりという方法で、仲間から得たものを自分の授業に還元できたと思います。これが、先学期と比べて成長した部分ではないかと感じています。自分一人では、思いつかなかったことやどんなふうに言ったら伝わるのかと悩んでいたことが、他の人の授業をみてわかることがあったり、ひらめいたりすることがありました。

今学期YMCAでの実習は、先学期の中国からの留学生へ日本語授業をするよりも人数がずっと多くなって、教卓から一人一人の表情が見えて、こんなにたくさんの人の前に立って授業を行うのは初めてでした。初めのほうは、前に立って、ホワイトボードに模造紙を張ったり、それを移動させたり、磁石を張ったりすることでさえ、緊張して余計に手間が掛かったりして、学習者にとっては無駄な時間がたくさんあったと感じます。しかし、授業を重ねるごとに、その場で慌てなくていいように、模造紙をスムーズに動かして無駄な時間を作らなくていいように動かし方を工夫したり、ワンタッチで開きやすいよう模造紙をたたんで張っておいたり、一緒に授業を行うペアの人とうまく連携として、模造紙の張って剥がしての作業をしてもらったりして、余計な手間になる時間をなくすことができ、心にも余裕ができました。これらの行動は、授業をスムーズに行うために、模造紙を張って剥がすという行動の中で、それをてこずって学習者に退屈な時間を与えないような授業を行うためにできた工夫でした。授業の後に毎回みんなで行う反省会するとき、学習者にとって無駄な時間を省いて、もっと効率よく授業をしたいと話合っていて、その次の授業から改善し、B班のみんなで自然と意識の共有ができました。

それから、毎週水曜の授業の前のリハーサルの際に、普段通り使っている言葉で学習者

に質問しても伝わりにくいということを知りました。授業中に学習者へかける言葉をいかにわかりやすくかつ、学習者にとって伝わりやすいように簡単に言い換えて発するということに関しても、注意しなければならないと気づくことができました。リスニングの問題をする時に、2回目を聞きたい人がいるか学習者に質問する時を例として挙げます。何も意識せずに普段通りに質問すると、「この問題、もう一回聞きたい人はいますか」と質問してしまいます。ただ、これだと、学習者が分かりづらいかもしれませんので、日本語を教える立場になって意識して「もう一度聞きますか」と質問すると、学習者にとってわかりやすくなり、何を言われているのか素早く理解できるようなのです。こういった工夫を重ねて、「学習者に質問する時に、伝わりやすいように言葉を選んで発していくこと」が少しずつできるようになったと思います。質問をした時に、学習者の反応を見て理解できているか確認し、理解できていないと感じた時にもっと伝わりやすい言葉に言い換えなければならないことを学びました。

今学期は、今までよりも長い授業時間でした。教案作成や教材作成の量もぐっと増えました。一番最初の授業の教案作成では、どのように授業を進めていっていいのか全然わからず、担当部分は決まっているにもかかわらず、授業の進め方のイメージができなくて、教案作成に取りかかるまでに時間がかかりました。その度に、先生にアドバイスをいただき、少しずつイメージすることができるようになったのですが、今度は、時間配分のことを考えないといけなくなったりと、教案作成をするのは本当に大変でした。と同時に、その「教案がなかったら授業を進めるのは不可能だ」と感じることもできました。いざ授業をやってみると、設定した時間通りに進めることをめざすものの、その通りにうまくいかなかったら予定を変更しなければなりません。これは、教案で時間設定をできていたからこそできることで、教案を作成することによって、設定した時間を確認しながら授業を進められるのだと感じました。

#### これからの抱負

先学期と比べて今学期では、日本語を教えるということに対しての楽しさを、以前よりも大きく感じる自分がいます。外国人に日本語を「教える」ということに対して、今までよりもたくさん知識が身につけることができました、その知識を授業で活かしてみても学習者とのコミュニケーションがうまくいったり、教室全体で楽しく授業ができたり、学習者に発言をさせると自分が思っている以上の答えが返ってくる面白さを感じたりして、「次の授業は前回の授業の反省をいかしてどのようにして作っていかうか」など授業自体が楽しみになっていました。教卓に立つと、やはりまだ少しは緊張はするのですが、学習者は敵ではなく仲間であって、みんなで授業を作っていくものだと感じるようになりました。

もし次に私が授業をやるときは、今回、授業を行ってきた総まとめの反省を活かしたいと思っています。その一つ目は、授業の内容としてやっていることが楽しくなりすぎて、区切りがつけられずに時間配分を忘れてしまい、後に行う予定だったことができなくなり、他に教えたいことが疎かになってしまったりすることを防ぎたいです。二つ目には、学習者にリ

ピートさせる時に、音読している学習者を見ずに模造紙ばかり見てしまいがちなので、一人一人の顔を見ていろいろなことに気づいていけるように改善していきたいと思いました。最後に、学習者とのアイコンタクトによって小さな変化に気づくことができ、その重要性を再認識したので、アイコンタクトを大切にしていこうと思っています。